

小 学 校

平成 2 4 年度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

|     |   |    |
|-----|---|----|
| I   | 研究主題設定の理由   | 1  |
| II  | 研究の視点   | 2  |
| III | 研究の仮説   | 2  |
| IV  | 研究の方法   | 2  |
| V   | 研究の内容   | 3  |
| 1   | 研究構想図   |    |
| 2   | 教員の意識調査   |    |
| 3   | 研究の実際   |    |
|     | ・ 中学年分科会の実践   | 6  |
|     | 第3学年 9月実施「お話カード」を作って、2年生にしょうかいしよう<br>教材名「わすれられないおくりもの」スーザン=バーレイ（教育出版3年上）<br>授業者 井出 誠 主任教諭（江戸川区立西小松川小学校） |    |
|     | ・ 第5学年分科会の実践  | 12 |
|     | 第5学年11月実施 椋鳩十作品を読み、おすすめリーフレットを作ろう<br>教材名「大造じいさんとガン」 椋鳩十（光村図書5年）<br>授業者 松浦 かおり主任教諭（練馬区立光が丘夏の雲小学校）        |    |
|     | ・ 第6学年分科会の実践  | 18 |
|     | 第6学年10月実施 人物の生き方をとらえ、「本の扉」を作ろう<br>教材名「海の命」 立松和平（光村図書6年）<br>授業者 中野 貴博 主任教諭（にしみたか学園三鷹市立第二小学校）             |    |
| VI  | 研究の成果と課題  | 24 |

## 研究主題

# 内容や表現を関連付けることで、読む力を高める指導の工夫

～文学的な文章を読むことを通して～

## I 研究主題設定の理由

東京都教育委員会では平成22年度から「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の中で「読み解く力に関する調査」を実施してきた。本調査においては、読み解く力の定着状況を「①必要な情報を正確に取り出す力」「②比較・関連付けて読み取る力」「③意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の3観点から分析している。平成23年度と同調査の結果によると、国語科では、「必要な情報を正確に取り出す力」の設問の正答率は8割弱であるが、「比較・関連付けて読み取る力」が7割弱、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」が約4割という正答率となっており、読み解く力を育成する指導の充実を図る必要があることが分かる。

また、平成21（2009）年に実施されたPISA調査の読解力調査からは、見付け出した必要な情報の関係性を理解し、解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりする指導の充実を図ることが必要であることが分かる。

これらの結果からは、2つの課題を見出すことができる。1つは、取り出した情報を比較・関連付けて読み取る力を育成すること。2つは、比較・関連付けした情報を基に、さらにつながりを見付けて、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して課題を解決する力を育成することである。

さて、小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）には、文章の解釈について、「今までの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読んでいく」とある。この「関連付けて読んでいく」とは、まさに「読み解く力に関する調査」の「②比較・関連付けて読み取る力」「③意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」であり、「読み解く力に関する調査」の結果から、小学校学習指導要領でいう「関連付ける」という思考方法が児童に身に付いていないと分析できる。

この「関連付ける」という思考方法について、国語科の授業における指導の在り方を振り返ると、文学的な文章において、各場面の様子や登場人物の心情を捉える指導は行ってきたが、場面と場面を関連付けて登場人物の気持ちの変化を捉えたり、人物と人物の相互関係から物語の流れを捉えたりするような指導を行ってこなかったため、児童は、作品の全体像や根底に流れるテーマ、主人公の心情の奥深くにあるものを推し量ることができていないことが多い。

そこで、「関連付ける」という思考方法を児童が身に付け、文章を解釈することにより、「読む力」を高めることができると考え、研究主題を「内容や表現を関連付けることで、読む力を高める指導の工夫」と設定した。

なお、「読む力」とは、小学校学習指導要領国語科「C読むこと」の指導事項に示された内

容を、児童が発達段階に応じて身に付け、主体的に本や文章に書かれた内容を理解し意味付けし、自分の考えをもつ力と捉えている。

東京都教育委員会の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、「比較・関連付けて読み取る力」と「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の正答率が、説明的な文章よりも文学的な文章が低いという状況が、2年連続で続いている。さらに、文部科学省が実施した「平成22年度 全国学力・学習状況調査【小学校】」からは、文学的な文章に顕著な課題があることが分かる。そこで、これらの状況を踏まえ、副主題を「文学的な文章を読むことを通して」と設定した。

## Ⅱ 研究の視点

以下の視点をもって研究に取り組む。

### 【視点1】言語活動の工夫

単元で取り上げる指導事項を児童に身に付けさせるために、単元を貫く言語活動を設定していく。

### 【視点2】「関連付ける指導」の工夫

関連付ける内容や表現を明確にし、関連付ける方法を児童に身に付けさせる指導の工夫をしていく。

### 【視点3】交流の工夫

児童が目的意識をもちながら交流に参加し、新しい気付きや発見があるように交流の場を工夫していく。

## Ⅲ 研究の仮説

内容や表現を関連付けて読む指導を充実させることで、児童は、叙述の内容や意味を、根拠をもとに考えるようになり、「読む力」が高まっていくであろう。

## Ⅳ 研究の方法

### 1 調査研究

平成22・23年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や平成22・23年度「全国学力・学習状況調査」等を参考にして、東京都の児童の国語の能力の課題を分析した。

### 2 教員の意識調査

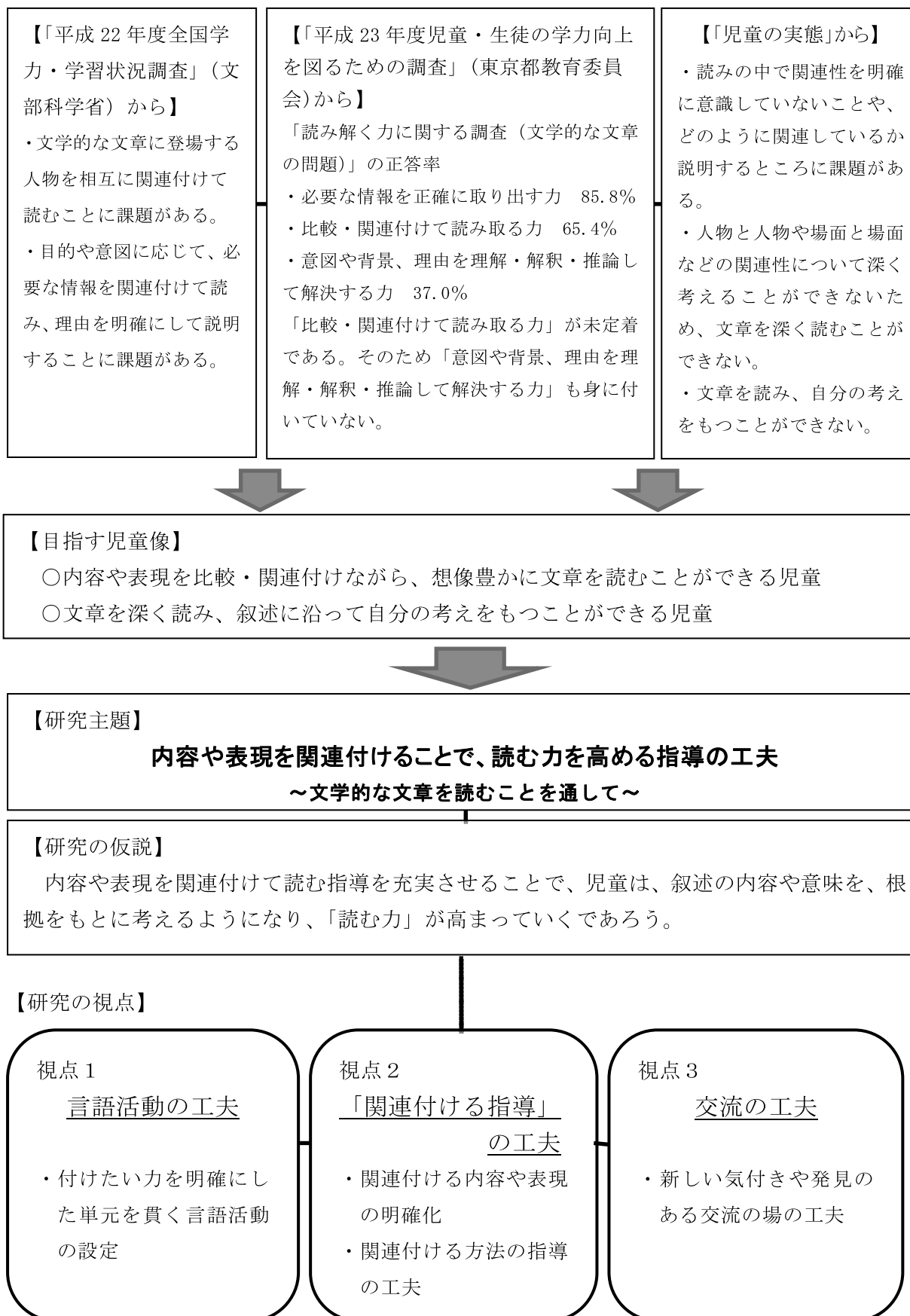
教員に対して「文学的な文章の指導」に関する調査を行い、その分析から文学的な文章の指導についての実態を把握した。

### 3 授業検討・検証授業

教育研究員の月例会や、中学年・第5学年・第6学年分科会において、研究主題に迫るための授業を検討した。また、検証授業を行い、仮説の検証を行った。

## V 研究の内容

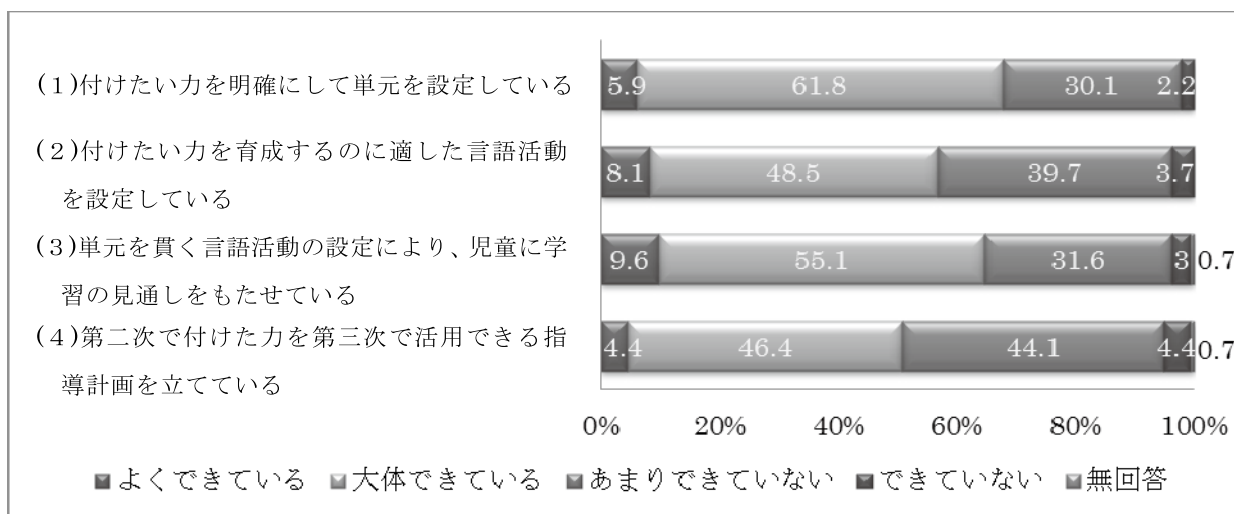
### 1 研究構想図



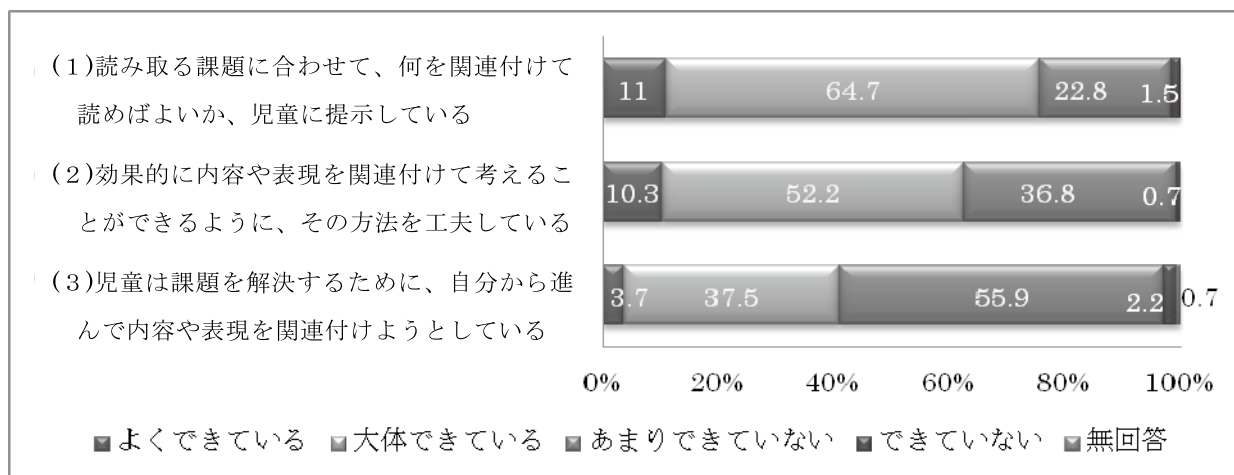
## 2 教員の意識調査 [平成 24 年度教育研究員(小学校国語)の所属校 12 校の教員 136 人に実施]

### 調査項目と結果

#### 【言語活動の工夫について】



#### 【「関連付ける指導」の工夫について】



### 考察

#### 【言語活動の工夫について】

- ・単元でどのような力を付けたいのかを明確にして指導している教員が7割に満たない状況である。また、付けたい力を育成するのに適した言語活動を設定している教員が6割に満たない状況である。さらに、第二次で付けた力を第三次で活用できる指導計画を立てている教員は約半数という状況である。

#### 【「関連付ける指導」の工夫について】

- ・8割弱の教員が課題に合わせて関連付けるものを児童に提示しているが、児童が自分から進んで内容や表現を関連付けようとしているのは、約4割という状況である。

これらの結果から、「関連付ける」思考方法を児童が意識的にできるような指導の在り方や、単元で付けたい力を明確にし、その付けたい力を育成するのに適した言語活動の工夫について研究し、提案していく必要があると考える。

### 3 研究の実際

#### <本研究における「読む力」>

|              | 第1学年及び第2学年                                | 第3学年及び第4学年   | 第5学年及び第6学年   |
|--------------|---|--|--|
| 文学的な文章の解釈    | ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。      | ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 | エ 登場人物の相互の関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 |
| 自分の考えの形成及び交流 | オ 文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 | オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。           | オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。            |

児童が主体的に、本や文章に書かれた内容を理解し意味付けし、自分の考えをもつ力

本研究は、上記の児童の「読む力」を高めることをねらいとしている。そのために、3つの視点に沿って研究を進めてきた。

#### 【視点1】言語活動の工夫

「付けたい力」を児童に定着させるために単元を貫く言語活動を設定するようにした。例えば、第5学年分科会の場合、「登場人物の行動や場面についての描写を捉え、叙述や優れた表現を基に登場人物の心情について自分の考えをまとめること」を付けたい力と設定した。そして、単元を貫く言語活動として「おすすめリーフレット作り」を位置付けた。第二次では共通教材で「おすすめリーフレット」を作り、第三次では、並行読書してきた作品の「おすすめリーフレット」を作ることで、第二次での学びを第三次で活用できるように指導した。なお、並行読書とは、単元の学習が実施されている期間及びその前後において、単元に関連する図書を授業や朝の読書の時間、休み時間、家庭での学習時間等を利用して読むことである。

#### 【視点2】「関連付ける指導」の工夫

「関連付ける内容や表現の明確化」「関連付ける方法の指導の工夫」の2つの要素に沿って研究を進めてきた。例えば、中学年分科会の場合、関連付ける指導の工夫として、「2つの場面を比べ、登場人物の気持ちの関連を考えること」を取り上げた。場面と場面を比較することで、登場人物の気持ちの変容の要因について関連付けて考えられるようにした。そのために、気持ちが変わった根拠となる叙述を「表」に整理して比較する方法や登場人物の気持ちを吹き出しに書いた2つの場面の「お話カード」を見比べる方法を実践した。

#### 【視点3】交流の工夫

児童が目的意識をもちながら交流に参加し、新しい気付きや発見があるように交流の場を工夫した。例えば、第6学年分科会の場合、多様な解釈ができる学習課題を設定した。そのように設定することで、友達の考えから新しい気付きや発見ができるようにした。

## 中学年分科会の実践

### 1 単元名 「お話カード」を作って、2年生にしょうかいしよう

教材名「わすれられないおくりもの」 スーザン＝バーレイ（教育出版3年上）

### 2 単元の目標

- 本を紹介するために、場面や登場人物の気持ちなどを関連付けながら、自分の考えをもって読もうとすることができる。（国語への関心・意欲・態度）
- 場面と場面を関連付け、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。（「C読むこと」ウ）
- 想像した登場人物の気持ちを交流しながら感じ方の違いに気付き、それぞれのよさを取り入れることができる。（「C読むこと」オ）
- 表現したり理解したりするために必要な語句を増やすことができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

### 3 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度   | 読む能力   | 言語についての知識・理解・技能                                    |
|--|--|--|
| ・2年生に本を紹介するために、本を繰り返し読むなどして、場面や登場人物の気持ちなどを関連付けながら、新たなおもしろさを見つけようとしている。 | ・自分が選んだ本を紹介するために、叙述を基に場面と場面を関連付けながら、場面の移り変わりの印象的なところや主人公の気持ちの変化を捉えて読んでいる。<br>・自分と友達の「お話カード」を読み比べ、感じ方の違いに気付き、それぞれのよさを取り入れている。 | ・気持ちを表現したり理解したりするときに必要な語句を増やすために、国語辞典などを利用して調べている。 |

### 4 教材の特性

「わすれられないおくりもの」では、登場人物同士の心のつながりが、あなぐまとの思い出を通して描かれている。登場人物たちは、あなぐまとの思い出を振り返る中で、あなぐまが残していった知恵や心のつながりを知り、心を新たにするとともに、あなぐまの死を乗り越え、お互いに助け合って生きていこうとするようになる。

この作品は、冬から春へという季節の移り変わりが描かれており、登場人物の気持ちについても、この情景の移り変わりとともに捉えやすくなっている。場面と場面を関連付け、登場人物同士の気持ちの変化について、自分の考えをもって読んでいくというねらいに適した教材であると考えられる。

### 5 研究主題に迫るための手立て

#### (1) 言語活動の工夫

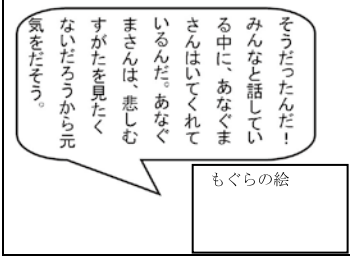
単元を貫く言語活動として、「『お話カード』を作って、2年生にしょうかいしよう」を位置付



けている。この言語活動は、A4サイズの「お話カード」をめくりながら、自分が選んだ本の情報を2年生に紹介する活動である。「お話カード」のよさとして、登場人物の気持ちに変化する前と後のカードをめくりながら示すことができるので、気持ちの変化したことを聞き手が捉えやすいことが挙げられる。カードに場面の絵を載せるため、絵の変化からも気持ちの変化を理解することができる。また、カードを並べて関連を整理したり、活動の目的に応じて組み替えたりすることもできる。さらに、直接向かい合って紹介するため、書いたものを見るのに比べて、紹介を受けた人が読んでみようという気持ちになりやすい。その結果、場面と場面を関連付け、登場人物の気持ちの変化を想像したり、登場人物の人柄から気持ちを想像したりする力を付けることができる。

「お話カード」の構成は、下表のとおりである。

| 構成                          | 内容   | お話カードの例 |
|-----------------------------|--|---------|
| ①題名・作者                      | わたしが紹介する本は、〇〇です。書いた人は△△です。   |         |
| ②登場人物の紹介<br>(お話カードA)        | この物語には、□□が出てきます。□□は、みんなからとっても頼りにされるくらい、みんなのためにかつやくしています。それに……です。               |         |
| ③あらすじ                       | このお話は、そんな□□が……するお話です。  |         |
| ④変化の前の登場人物の気持ち<br>(お話カードB)  | ◇◇が起きて、□□は……と悲しく思っています。  |         |
| ⑤変化した後の登場人物の気持ち<br>(お話カードC) | ところが、物語のおしまいで、□□は……と思うくらい～です。では、こんなに気持ちが変わったのは□□に何があったのでしょうか。ぜひ考えながら読んでみてください。 |         |

|                                      |  |  |
|--------------------------------------|--|--|
| <p>⑥登場人物の気持ちに変化した要因<br/>(お話カードD)</p> | <p>※2年生に紹介する前に、学級の友達と解釈を交流する場面で用いる。紹介の際には示さない。</p> |  <p>そうだったんだ！みんなと話している中に、あなぐまさんはいてくれてるんだ。あなぐまさんは、悲しむすがたを見たくないだろうから元気をだそう。</p> <p>もぐらの絵</p> |
| <p>⑦おすすめポイント</p>                     | <p>わたしが、この本をおすすめするポイントは・・・です。これで、〇〇の紹介を終わります。</p>  |  |

第一次のはじめに、教師作の「お話カード」を用いた「スーザン＝バーレイ」の本の紹介を聞く。この方法で2年生に本の紹介をすることを伝え、学習への意欲を高める。紹介の相手が下級生であることは、3年生にとって意欲的に学習に取り組む原動力となる。また、教材以外の作品について紹介することで、同一作者の描き方を味わうとともに、読書への関心を広げることがねらわれている。教室で紹介した本を展示することで、いつでも並行読書ができるようにする。

第二次では、「わすれられないおくりもの」を教材として、登場人物の気持ちの変化を捉えるために、登場人物の性格を想像しながら読むこと、気持ちに変化していった要因について自分なりの解釈をもつことを学習する。その際、もぐらの悲しみが消えていったのはなぜなのかを教材全体の読みのめあてとして学習を進める。その読みのめあてに迫るためには、あなぐまの性格やこれまでのもぐらとの交流を関連付けることが欠かせないこと、気持ちの変化の前と後の様子や行動を想像しながら比べることが大切であることを学び、課題解決的に読みを深めていく。毎時の学習は「お話カード」の形でまとめ、書いた内容を友達と交流しながら読みを深めていく。子供たちにとっては、「わすれられないおくりもの」を想像豊かに味わうとともに、第三次で自分が選んだ本の「お話カード」を作るための力を育むことができるようになる。

そして第三次では、並行読書してきた本の中から自分が紹介したい本を選び、「お話カード」を作成する。その際は、第二次で学習した、場面と場面を関連付け、登場人物同士の気持ちの変化を捉える読み方を活用するよう指導する。作成した「お話カード」は、最初にクラスと同じ本を選んだ友達と交流を行い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付かせたい。その後、2年生に紹介し、読んだ本のおもしろさを伝えるようにする。

## (2)「関連付ける」指導の工夫

- 2つの場面を比べ、登場人物の気持ちの関連を考える。

悲しみが消えたもぐらの気持ちを理解するためには、もぐらが何についてどのくらい悲しんでいたのかという変化の前の気持ちを捉えておき、それらを比較しながら考える必要がある。

- ・ 気持ちに変化した根拠となる叙述を表に整理して比較する。

まず、もぐらの気持ちが大きく変化する前と後の場面について、気持ちが分かる叙述を抜き出して全体で表に整理する。お話カードにもぐらの気持ちを想像して書く際の手

がかりとするとともに、それらを比較することで、変化の要因について根拠をはっきりさせながら考えられるようにした。

- ・ もぐらの気持ちを吹き出しに書いたカードを比べる。

もぐらの気持ちを吹き出しに書いた2つの場面の「お話カード」を読み比べることで、もぐらの気持ちの変化を具体的に捉えることができる。そこから変化の要因となった出来事に焦点化し、その出来事の中でもぐらはどのようなことを考えたのか、想像を広げながら解釈し表現できるようにする。

- 登場人物の人柄と気持ちの変化とを関連付ける

もぐらの気持ちの変化を考える上で、あなぐまの人柄ともぐらの気持ちを関連付けて推論することは重要である。前の時間に学習したあなぐまの人柄をまとめた資料を提示し、変化した要因について解釈する際に生かせるようにする。

- 同じ主人公が出てくるシリーズの作品の内容を関連付け、登場人物の人柄を読み取る。

同じ作者のシリーズの作品を読んだ経験と関連付けることで読みが豊かになる。本単元では、同じ主人公が出てくるシリーズの他2作品と積極的に関連付けることで、あなぐまの人柄やあなぐまともぐらのつながりについて想像を深めることができるようにする。

### (3) 交流の工夫


本単元の学習を深めるために、第二次と第三次に交流の場面を設定した。

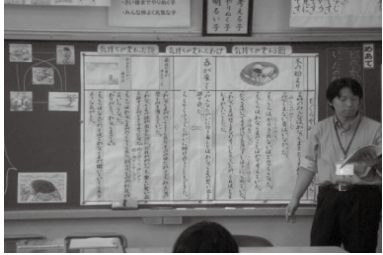
まず、第二次では、全体で表に整理した内容を基に、各自で、場面ごとの「お話カード」に登場人物の気持ちを想像して書く。書いたカードを友達と読み合い、自分との共通点や相違点から登場人物の気持ちを学び、読みをさらに深められるようにする。

第三次では、2年生に紹介する前に、自分が選んだ本についてまとめた「お話カード」を使って、同じ本を選んだ友達と交流する。同じ本について作ったカードでも、着目した叙述や想像した気持ちに違いがあることに気付かせたい。

## 6 学習指導計画（10時間扱い）

| 次 | 時 | 学習活動   | 指導事項  | ☆手立て ■評価規準（評価方法）  |
|---|---|--|---|---|
| 一 | 1 | ○教師による「お話カード」等を使った「スーザン＝バーレイ」の本の紹介を聞く。<br>○「お話カード」を作って2年生に紹介することを知り、学習の計画を立てる。 | ○「スーザン＝バーレイ」の本や「お話カード」の紹介の仕方に関心をもち、学習の見通しをもつこと。 | ☆「お話カード」の見本を提示し、学習への意欲を高めるとともに、学習の計画を児童と共に立てることで学習への見通しをもたせる。   |
|   |   | ○「スーザン＝バーレイ」のシリーズ作品を読む。<br><br>(単元を通して並行読書を行う。)                                |   | ☆自分が興味・関心をもった本の並行読書をさせる。<br>■進んで本の紹介を聞いたり興味をもって読書したりしている。(関：観察) |

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 二 | 2 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「わすれられないおくりもの」を読んで、「お話カード」を作ろう</p> </div> <p>○「わすれられないおくりもの」という題名を読み、どんな話かを想像する。</p> <p>○「わすれられないおくりもの」の範読を聞く。</p> <p>○登場人物とあらすじの確認をする。</p> <p>○初発の感想を交流し、読みの課題をもつ。</p> | <p>○中心人物と主な出来事をおさえること。</p> <p>○中心人物や題名との関連について思ったことを交流し、読みの課題をもつこと。</p> | <p>☆物語の大体の展開を把握するために挿絵を提示して、登場人物やあらすじを確認する。</p> <p>■感想を基に読みの課題をもっている。<br/>(読：発表・観察)</p>   |
|   | 3 | <p>○あなぐまの人柄について考えることを確認する。</p> <p>○あなぐまの人柄がわかる叙述にサイドラインを引き、クラス全体で、あなぐまの人柄がわかる叙述を確認する。</p> <p>○叙述を基に、想像したあなぐまの人柄や願いを「お話カードA」に書き、交流を通して自分の読みを深める。</p>   | <p>○叙述を基に登場人物の人柄を読み取ること。</p>  | <p>☆シリーズ作品(「アナグマのモチよりパーティー」)「アナグマさんはごきげんななめ」の内容と関連付けながら登場人物の人柄を読み取らせる。</p> <p>■友達を思うあなぐまの優しさについて、想像しながら読んでいる。<br/>(読：ワークシート・発表)</p>   |
|   | 4 | <p>○あなぐまが死んでしまったとき、もぐらは、どのくらい悲しんだのか想像することを確認する。</p> <p>○もぐらの気持ちがわかる叙述にサイドラインを引き、クラス全体で、もぐらやの様子や気持ちを確認する。</p> <p>○叙述を基に、もぐらの気持ちを想像して「お話カードB」に書き、特に伝えたい一文に線を引く。</p> <p>○互いの想像したことを交流し合い、自分の読みを深める。</p>  | <p>○叙述を基に登場人物の気持ちを想像すること。</p>   | <p>☆悲しみがどうして消えたのかを考えるために、深い悲しみの様子を読み取ることを確認する。</p> <p>☆表を使ってもぐらの気持ちがわかる叙述を整理し、もぐらの様子や気持ちを捉えさせる。</p> <p>☆相手が2年生であることを意識させ、想像した気持ちを短くまとめるように指示する。</p> <p>■叙述を基に、もぐらの様子や気持ちを想像しながら読んでいる。<br/>(読：ワークシート・発表)</p> |
|   | 5 | <p>○悲しみにくれていたときと比べ、もぐらの気持ちがどのように変わったかについて想像することを確認する。</p> <p>○もぐらの気持ちがわかる叙述にサイドラインを引く。</p> <p>○サイドラインを基に、最後の雪が消えた場面での、もぐらやみんなの様子や気持ちを表に整理して確認する。</p> <p>○叙述を基に、もぐらの気持ちを想像して「お話カードC」に書き、特に伝えたい一文に線</p>   | <p>○情景の移り変わり、登場人物の気持ちを関連付けながら読むこと。</p>                                  | <div style="text-align: center;">  </div> <p>☆表を使ってもぐらの気持ちがわかる叙述を整理し、もぐらの様子や気持ちを捉えさせる。</p> <p>■叙述を基に、もぐらの様子や気持ちを</p>   |

|   |                             |   |  |   |
|---|-----------------------------|---|--|---|
|   |                             | を引く。<br>○互いの想像したことを交流し合い、自分の読<br>みを深める。   |  | 想像しながら読んでいる。<br><br>(読：ワークシート・発表)   |
|   | 6                           | ○もぐらがどのようなことに気づき、悲しみが<br>消えていったのかを考えることを確認する。<br>○春が来て、もぐらやみんながしたことにつ<br>いてサイドラインを引き、クラス全体で確認す<br>る。<br>○思い出を語り合う場面を音読して、場面の様<br>子を捉える。<br>○もぐらの気持ちが変っていった理由を解<br>釈して「お話カードD」に書き、交流し、自<br>分の読みを深める。 | ○登場人物の願いや場面<br>の出来事を基に、前後<br>の気持ちを関連付けな<br>がら、変化の要因につ<br>いて解釈すること。 | ☆表を使ってもぐらやみんなの気持ちの<br>整理し、気持ちの変化を捉えさせる。<br>☆登場人物がつながっていく様子を捉え<br>やすくするため、登場人物の関係を表<br>した図を活用する。<br><br>■これまでの学習の内容と関連付けなが<br>ら、もぐら気持ちがどのように変化し<br>ていったのか、自分の解釈を書してい<br>る。<br>(読：ワークシート・発表) |
|   | 7                           | ○「わすれられないおくりもの」の題名につ<br>いて考えることを確認する。<br>○悲しみにくれていた時と比べて、もぐらの気<br>持ちがどのように変わったのかがわかる叙<br>述にサイドラインを引き、クラス全体でもぐ<br>らの気持ちの変化を確認する。   | ○読み取ったことと題名<br>を関連付けて、自分の<br>考えをもつこと。                              | ■題名が「わすれられないおくりもの」<br>になったわけを考え、もぐらの気持ち<br>の変化を読み取っている。<br><br>(読：ワークシート・発表)  |
| 三 | 8                           | 自分が選んだ本の「お話カード」を作って、2年生にしようかいしよう  |  |   |
|   | 9                           | ○並行読書した本から、2年生に紹介したい本<br>を選び、学んだ視点に沿ってお話カードを作<br>る。   | ○気持ちが変化する前と<br>後とを関連付けなが<br>ら読み、「お話カード」を<br>作ること。                  | ☆「わすれられないおくりもの」を読ん<br>で学んだ視点を確認する。<br>■場面の移り変わりや登場人物の気持ち<br>の変化、登場人物の性格に着目して、<br>お話カードを作っている。<br><br>(読：お話カード)  |
|   | 10                          | ○クラスの同じ本を選んだ友達とお話カード<br>を使って交流を行う。  | ○一人一人の感じ方につ<br>いて違いのあること<br>に気付くこと。                                | ■登場人物の気持ちの変化について、ど<br>の叙述に基づいているかを明らかにし<br>ながら交流し合い、一人一人の感じ方<br>について違いのあることに気付いてい<br>る。<br><br>(読：お話カード・発表)   |
|   | ※2年生に紹介する活動は、朝の読書の時間を使って行う。 |   |  |   |

## 第5学年分科会の実践

- 1 単元名 椋鳩十作品を読み、おすすめリーフレットを作ろう  
 教材名「大造じいさんとガン」 椋鳩十（光村図書5年）

### 2 単元の目標

- 優れた表現のよさや作者の自然観・動物観などを味わいながら、進んで椋鳩十の作品を読むことができる。 (国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動や場面についての描写を捉え、叙述や優れた表現を基に登場人物の心情について自分の考えをまとめることができる。 (「C読むこと」エ)
- 椋鳩十の様々な作品を読んで、作者や作品の魅力を交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (「C読むこと」オ)
- 語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもって読むことができる。  
 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

### 3 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度   | 読む能力   | 言語についての知識・理解・技能  |
|--|--|--|
| ・興味、関心のある椋鳩十作品を選び、優れた表現のよさや作者の自然観・動物観などを味わいながら、主体的に読もうとしている。 | ・登場人物の行動や場面についての描写を捉え、大造じいさんの心情の変化を読み取っている。<br>・大造じいさんとガンや椋鳩十の作品を読み、心に残る言葉や文章、気に入った場面などについて交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 | ・大造じいさんの心情の描写や美しい自然の情景描写、戦う残雪の行動描写の巧みさなど、優れた表現方法に気付いている。 |

### 4 教材の特性

本教材は、狩人として生きる「大造じいさん」と、ガンの群れを率いる「残雪」という一羽のガンとの間に繰り広げられる激しい戦いを、美しい情景描写とともに生き生きと描いた作品である。

登場人物の行動や情景描写など、筆者の優れた表現が反映されている叙述からは、残雪に対する大造じいさんの心情を想像力豊かに読み取ることができる。また、暗示的な描写からは読みをさらに深めることができ、児童が物語を読み味わうことの楽しさを知る教材としても適している。

### 5 研究主題に迫るための手立て

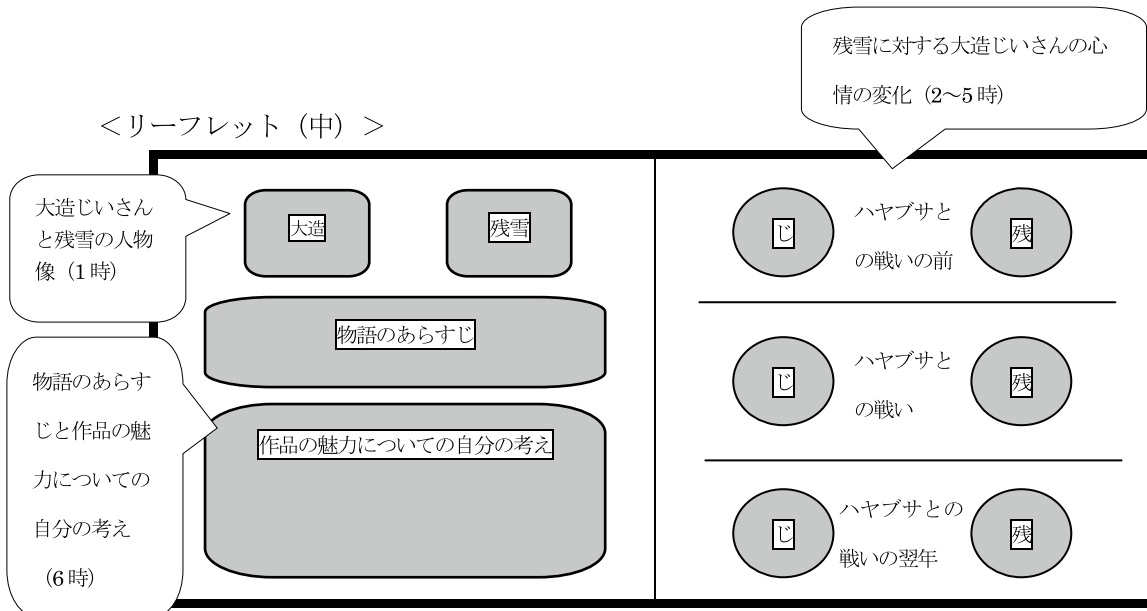
#### (1) 言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として、「椋鳩十作品を読み、おすすめリーフレットを作ろう」を位置付けている。この言語活動は、第二次で学んだ読み方を生かし、並行読書で見付けたお気に入りの椋鳩十の作品をB4サイズ二つ折りのリーフレットで紹介していく活動である。児童が興味・関心のある作品を自分で読み深め、読み取った情報を整理しながら、感じたことや考えたことをリーフレットと

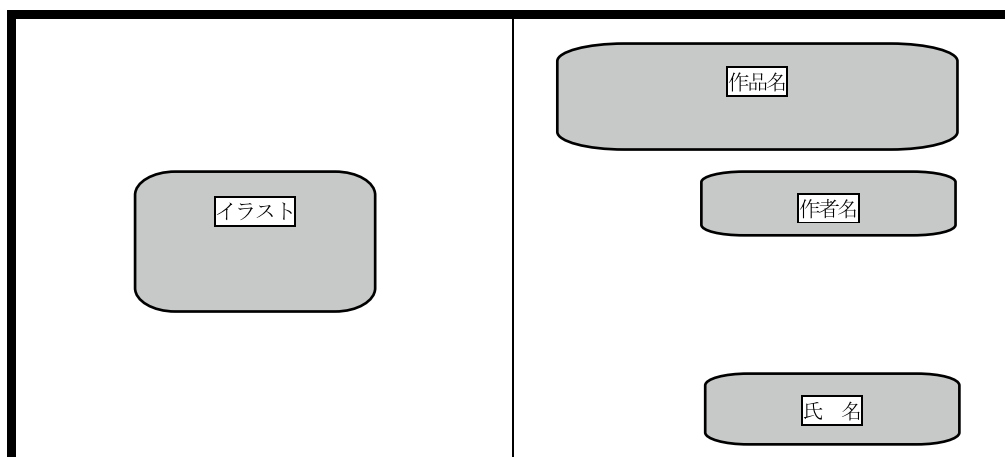
いう形で自分なりに表現していくものである。リーフレットには、限られた紙面の中で、相手に分かりやすく、また、読み手の興味・関心を高めるような内容を掲載することが求められる。そのためには、物語のあらすじを捉えることはもちろんのこと、作品の魅力や作者の世界観に迫り、自分なりの考えをもって作品を端的に表現していくことが必要である。したがって、この単元において読み取った作品の魅力やリーフレットで表現するという言語活動は、読む力を高めていくためには有効な手段であると考えられる。

第二次では、「大造じいさんとガン」を教材に学習する。この学習では、毎時間の読み取りの観点を「登場人物の特徴」「人物相互の関係と心情変化」「物語のあらすじ」「作品の魅力についての自分の考え」という内容にしている。読み取りの観点を位置付けることにより、「登場人物の行動や場面についての描写を捉え、叙述や優れた表現をもとに登場人物の心情について自分の考えをまとめること」という、単元で最も付けたい力の育成に迫ることができると考えた。これらの観点で読み深めたことは、そのままリーフレット作りの材料となっていく。

第三次では、第二次の学習が直接生かされるようにしており、児童は目的意識をもって自分が選んだお気に入りの作品を読み進めることができ、主体的な学習活動が期待できる。



＜リーフレット（表紙）＞



本単元では、第一次から椋鳩十の作品の並行読書を始め、第三次の活動へとつなげていく。教室には近隣公立図書館及び学校図書館から借りた椋鳩十の関連図書を設置し、児童が常時作品に親しめる環境を整える。また、椋鳩十の著作は、一冊の本の中に短編の作品が数点おさめられている。このことを利用し、一冊ずつという単位ではなく、一作品につき一枚の読書カードを作成した。短い物語を読み進め、作品を読み通したという達成感を味わうことができるようにし、読書が苦手な場合でもより意欲的に並行読書が進められるようにした。これらの手立てにより、児童が進んで読書に親しみ、主体的にリーフレットを作ることができるよう工夫した。

| 読書カード No.1 |                | 名前 _____ |        |       |
|------------|----------------|----------|--------|-------|
|            | 作 品 名          | ページ数     | 読み終えた日 | オススメ度 |
| 1          | 大造じいさんとガン      | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |
| 2          | 金色の川           | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |
| 3          | 壁い土の中でおこなわれたこと | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |
| 4          | 片耳の大シカ         | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |
| 5          | 月の輪グマ          | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |
| 6          | 森の王者           | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |
| 7          | 金色のあしあと        | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |
| 8          | 母グマ子グマ         | ページ      | / ( )  | ☆☆☆☆☆ |

## (2) 「関連付ける指導」の工夫

### ○物語の山場を中心に大造じいさんの心情の変化を関連付ける

物語の山場である残雪とハヤブサの戦いで大造じいさんの心情は大きく変容する。大造じいさんの残雪に対する心情の変化を深く読み取るために、残雪がハヤブサと戦う前、ハヤブサとの戦い、ハヤブサとの戦いの翌年を意識的に関連付けるようにする。場面ごとに区切って詳細に読み進めるのではなく、物語全体を通して大造じいさんの心情の変化に迫っていく。

### ○登場人物の行動や情景描写と大造じいさんの心情を関連付ける

大造じいさんの心情について、登場人物の行動や情景描写と関連付けながら根拠を明らかにして読み取る。物語には心情が直接的に描写されているものもあれば、情景描写のように暗示的に表現されている場合もある。叙述には直接書かれていない人物の深い心情等を想像力豊かに読み取ることができるよう指導していく。

## (3) 交流の工夫

### ○第二次における交流

観点（「登場人物の特徴」「人物相互の関係と心情変化」「物語のあらすじ」「作品の魅力についての自分の考え」）ごとに読み取ったことを、付箋紙や学習シートを活用して交流していく。根拠を明らかにしながら自分の考えを伝えたり、友達の感じ方や考え方を受けとめたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

### ○第三次における交流

第三次では、お気に入りの椋鳩十の作品から特に友達に紹介したい作品を取り上げ、登場人物の相互関係や心情の変化、あらすじなどをまとめたおすすめリーフレットを作成し、学級全体で交流する。一人一人のリーフレットを読み合う時間を十分に確保し、感じ方や考え方の共通点や相違点に気付かせていく。また、椋鳩十の自然観や動物観について、友達がすすめた複数の作品の読み取りを通して考えさせていきたい。



6 学習指導計画（8時間扱い）

| 次 | 時 | 学習活動   | 指導事項  | ☆手立て ■評価規準（評価方法）  |  |
|---|---|--|---|---|--|
| 一 | 1 | ○教師が作成した『片耳の大シカ』を題材にしたおすすめリーフレットの紹介を聞く。  |   | ☆教室に椋鳩十の関連図書を設置し、椋鳩十の作品の並行読書を行うよう促す。  |  |
|   |   | 椋鳩十作品を読み、おすすめリーフレットを作ろう  |   |   |  |
|   |   | ○椋鳩十の作品を読み、おすすめリーフレットを作ることを知り、学習の計画を立てる。<br><br>○教師の範読を聞き、物語の山場についての感想をもつ。<br><br>○学級全体で感想の交流をする。  | ○大造じいさんの残雪に対する見方が変容したことを押さえること。             | ■〈並行読書において〉興味、関心のある椋鳩十の作品を選び、すすんで読もうとしている。（関：観察・読書カード）<br><br>☆大造じいさんが残雪のことをどう思っているか考えながら範読を聞くよう指示し、山場を考える際の手立てとする。 |  |
|   |   | 大造じいさんの心情の変化を読み取ろう   |   |   |  |
|   |   | ○物語の全体をつかみ、登場人物について学習シートにまとめる。   | ○大造じいさんと残雪の人物像を捉えること。                       | ○登場人物をおさえ、簡単な紹介を学習シートに書いている。（読：観察・学習シート）  |  |
| 二 | 2 | ○情景描写について理解する。<br>・直接的、暗示的な描写  | ○情景描写から読み取れる心情について想像すること。                   | ☆本文中にある情景描写を例として取り上げ、直接的、暗示的な描写について理解させる。   |  |
|   | 3 | ○物語の山場を黙読する。<br><br>○残雪に対する大造じいさんの心情変化について考える。<br>・大造じいさんの心情が分かる叙述にサイドラインを引き、その心情を付箋紙に書く。<br>・付箋紙を基に、大造じいさんの心情についてグループで交流する。<br><br>○学級全体で交流し、大造じいさんの心情について確認する。 | ○叙述に基づいて心情を想像すること。<br><br>○自分と友達の考えの共通点や相違点 | ☆心情が大きく変わったと考えられる叙述に注目させ、大造じいさんの心情と関連する出来事について整理する。   |  |

|   |   |  |  |   |
|---|---|--|--|---|
|   |   | <p>○大造じいさんの残雪に対する心情について、学習シートにまとめる。</p> <p>○学習シートにまとめたことをグループで交流し自分の考えを広げたり深めたりする。</p> | <p>を見付けること。</p>  | <p>■大造じいさんの残雪に対する心情を捉え、人物関連図に書いている。(読:学習シート・観察)</p> <p>☆交流を通して気付いたことは、学習シートに書き込むよう指示する。</p> |
| 4 | <p>○物語の山場の前までを黙読する。</p> <p>○残雪をしとめようとする大造じいさんの心情について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大造じいさんの心情が分かる叙述にサイドラインを引き、その心情を付箋紙に書く。</li> <li>・付箋紙を基に、グループで交流し、自分の考えを広げたり深めたりする。</li> </ul> <p>○学級全体で交流し、大造じいさんの心情について確認する。</p> <p>○大造じいさんの残雪に対する心情について、学習シートにまとめる。</p> <p>○学習シートにまとめたことをグループで交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。</p> | <p>○山場で変化した大造じいさんの心情と情景描写を関連付けながら読むこと。</p> <p>○交流から自分の考えを広げること。</p>                    | <p>☆大造じいさんがしかけた作戦と残雪の行動を整理しながら読むように指示する。</p> <p>■大造じいさんの残雪に対する心情を捉え、人物関連図に書いている。(読:学習シート・観察)</p> |   |
| 5 | <p>○物語の山場の後を黙読する。</p> <p>○飛び去っていく残雪を見守る大造じいさんの心情について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大造じいさんの心情が分かる叙述にサイドラインを引き、その心情を付箋紙に書く。</li> </ul>  | <p>○山場の前と山場の心情を関連付けながら読むこと。</p>  | <p>☆これまでに学習してきた情景描写の捉え方を確認してから黙読させる。</p> <p>☆残雪を「ガンの英雄」と呼ぶまでになった大造じいさんの変化に注目させ、心情を考えさせる。</p>     |   |

|   |   |  |                                     |   |
|---|---|--|-------------------------------------|---|
|   |   | <p>・付箋紙を基に、グループで交流し自分の考えを広げたり、深めたりする。</p> <p>○学級全体で交流し、大造じいさんの心情について確認する。</p> <p>○大造じいさんの残雪に対する心情について、学習シートにまとめる。</p> <p>○学習シートにまとめたことをグループで交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。</p> | <p>○交流を通して自分の考えを広げること。</p>          | <p>■大造じいさんの残雪に対する心情を捉え、人物相関図に書いている。(読：学習シート・観察)</p>   |
|   | 6 | <p>○物語のあらすじと作品の魅力についての自分の考えを学習シートに書く。</p> <p>○学習シートにまとめたことをペアで交流する。</p> <p>○リーフレットを仕上げ、学級全体で交流し自分の考えを広げたり、深めたりする。</p>  | <p>○これまでの読みを振り返り、自分の考えを深めること。</p>   | <p>☆お気に入りの場面やおすすめの理由を書き、作品のよさが伝わるようなリーフレットになるよう意識させる。</p> <p>■大造じいさんの心情の変化を捉え、作品の魅力について書いている。(読・言：リーフレット)</p> |
| 三 | 7 | <p>○並行読書で読んできた椋嶋十の作品の中からお気に入りの作品を選び、「大造じいさんとガン」で学んだ視点に沿って、リーフレットを作成する。</p>   | <p>○作品の魅力や作者の自然観・動物観を捉えること。</p>     | <p>☆物語を読んでいない相手にも伝わるようなリーフレットになるよう意識させる。</p> <p>■作品の魅力や作者の自然観や動物観に気付いている。(読・言：観察・リーフレット)</p>                  |
|   | 8 | <p>○おすすめリーフレットの発表会を行う。</p> <p>○発表会の感想を学習シートに書き、全体で交流する。</p>  | <p>○他の作品や友達の考えを通して、自分の考えを広げること。</p> | <p>☆発表会の感想を書くときには、友達の発表を聞いて感じたことや考えが変わったことなどを書くように指示する。</p> <p>■交流を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。(読：観察・学習シート)</p>     |

## 第6学年分科会の実践

- 1 単元名 人物の生き方をとらえ、「本の扉」を作ろう  
教材名 「海の命」 立松和平（光村図書6年）

### 2 単元の目標

- 自分の経験や体験と重ねながら、作品に描かれている登場人物のつながりや心情を読もうとすることができる。 (国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を関連付けながら捉え、主人公の成長する姿についての自分の考えをまとめることができる。 (「C読むこと」エ)
- 人物の生き方が書かれた様々な作品を読み、人物の生き方についての考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 (「C読むこと」オ)
- 重要な言葉や優れた表現に着目し、その効果について考え、自分の読み取りや考えに生かそうとしている。 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

### 3 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度  | 読む能力   | 言語についての知識・理解・技能   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・自分が紹介しようとした理由を明らかにするために本を繰り返し読み返している。</li><li>・人物の生き方が書かれた他の作品を読もうとしている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・人物の相互関係や心情、場面の描写を捉え、太一の生き方や考え方を読み取っている。</li><li>・人物の生き方が書かれた作品を読み、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・比喩や擬人法などの表現の工夫に気付いている。</li></ul> |

### 4 教材の特性

「海の命」は、海という自然を舞台に、主人公の太一が成長していく姿が描かれている。太一は、成長していく過程で、生き方や考え方が大きく変化していく。この変化には、周囲の人々（父、与吉じいさ）や海、瀬の主であるクエの存在が大きく関わってくる。特に、巨大なクエと出会うことによって、太一の生き方や考え方は大きく変化する。自分の手でしとめなければいけない存在であったクエが「海の命」そのものとして守るべき存在へと太一の中で大きく変化するのである。

この作品は、起承転結で構成されており、時間経過や人物像が明示されているため、人物相互の関係を捉えやすく内容がつかみやすい。また、児童にとっては、太一の生き方と自分を重ね、自分自身を見つめ直すきっかけになる教材であると考えられる。

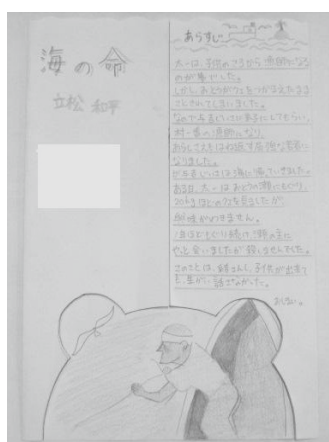
並行読書においても、人との関わりの中で主人公の考え方や気持ちが変わったり、新たな生き方を見い出したりしていく作品を読み、登場する人物の生き方について自分の考えを広げていけるようにした。

## 5 研究主題に迫るための手立て

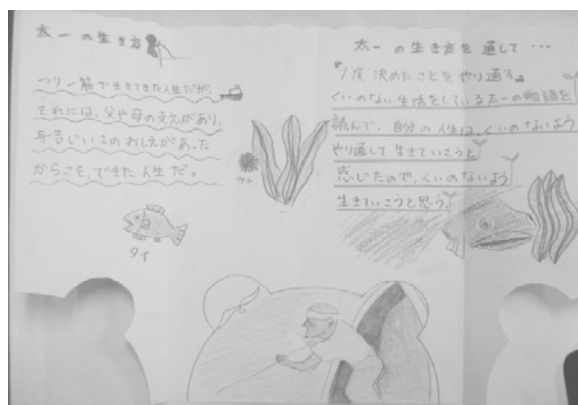
### (1) 言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として、「人物の生き方をとらえ本の扉を作る」を位置付けている。この言語活動は、自分が選んだ本を紹介するために、B4サイズの画用紙の中に、物語における主人公の生き方、その生き方についての自分の考えを書く活動である。「本の扉」のよさとして、主人公の生き方を紹介するために、必然的に主人公の見方・考え方が大きく変わる山場に着目できることが挙げられる。また、その山場を読み深めるために、それまでの太一が見たおとうや与吉じいさの姿、言葉、情景の描写を関連付けて、太一の心情を想像しなければいけないという必然性が生まれる。さらに、主人公の生き方と自分を照らし合わせ、自分自身を見つめる活動を設定することで、自分の生き方についても考えることができる。

「本の扉」の中心には、作品における自分にとっての印象的な場面の絵を載せるようにすることによって、あらすじの理解や主人公の生き方をより分かりやすく表現することもできる。



【「本の扉」を開く前】



【「本の扉」を開いたとき】

「本の扉」に掲載する内容は、「作品名・作者名」「主人公の成長過程を表すあらすじ」「主人公の生き方」「主人公の生き方を通して」の4項目である。

第一次のはじめに、「主人公成長物語」をテーマにしたブックトークを行う。主人公が登場人物の関わりによって成長する物語を提示し、教師作の「本の扉」を紹介することで、学習への興味・関心をもたせる。そして、自分が選んだ成長物語を「本の扉」を使って友達に紹介することを伝え、学習への意欲をもたせるとともに、学習の計画を立てさせることで、児童が主体的に学習に取り組んでいけるようにする。また、教材以外の成長物語を紹介し合うことで、様々な主人公の生き方を捉えるとともに、読書への関心を高めていくこともできる。

第二次では、「海の命」を教材にして、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を関連付け、主人公の成長する姿について、自分の考えをまとめることを学習する。初めに、印象に残った場面を基に感想を交流し、感想から学習課題として「クエを打たなかった太一の気持ちを考える」を設定する。その学習課題に迫るために、太一の人物像やおとうや与吉じいさの生き方を関連付けること、周囲の影響によって太一が成長する姿や生き方を捉えることを指導する。そして、「海の命」の読み取り後、「本の扉」において「主人公の生き方」をまとめる。

「主人公の生き方を通して」の項目をまとめるときには、作品に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいと思ったところなどを中心に考えをまとめる。そして、第二次の最後には、「海の命」の「本の扉」を、友達と交流することで、自分の考えを広げたり、深めたりすることもできる。

第三次では、「主人公成長物語」をテーマにした自分が選んだ本を、学級、学年の友達に紹介するために「本の扉」を作成する。第二次で学習した主人公の成長と周囲の人物とを関連付けて読む力を活用するよう指導する。作成した「本の扉」を使いながらの交流を通して、そこに紹介されている主人公の生き方について自分の考えを発表する。また、「本の扉」を互いに読み合い、人物の生き方が書かれた様々な作品を知ることによって、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

## (2) 「関連付ける」指導の工夫

「海の命」において、学習課題を「クエを打たなかった太一の気持ちを考える」と位置付けている。太一がクエを打たなかった理由を読み取るには、おとうや与吉じいさの言動と関連付けた太一の気持ちの変化を考えることが重要である。おとうの言葉「海のめぐみだからなあ。」や与吉じいさの言葉「千びきに一びきでいいんだ。」を太一の「瀬の主を殺さないで済んだのだ。」という叙述に、関連付けることによって、読む力を高めていく。また、父の「海のめぐみ」、与吉じいさの「千びきに一びき」という言葉を関連付け、共通点を見出すことから「海の命」の意味がより深いものとなる。

太一の心情とおとうや与吉じいさの言葉を関連付けるために、叙述と自分の考えを表に整理し、言葉や矢印で意味付けるように指導する。また、学習課題「クエを打たなかった太一の気持ち」に関わるおとうや与吉じいさの生き方、考え方については、付箋紙にまとめ、その内容を次時の学習に関連付けることで読みが深まるよう指導する。


## (3) 交流の工夫

第二次では、ペア学習で自分の読み取りの確認をしたり、自分とは違う視点からの読みに気付いたりした後、クラス全体での交流に進んでいく。ペア学習のねらいとして、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えと比べたりする中で、友達の考えのよさやおもしろさに気が付いたり、自分の考えを広げたり、深めたりしながら、読む力を高めていけることが挙げられる。

その際、根拠・理由・主張の3つの枠組みを意識することで論理的に話し合えるようにも指導していく。

## 6 学習指導計画（9時間扱い）

| 次   | 時 | 学習活動  | 指導事項                                     | ☆手立て■評価規準（評価方法）  |
|---|---|---|--|--|
| 一   | 1 | <p>○「主人公成長物語」をテーマにしたブックトークを聞く。</p> <p>○教師による「本の扉」を使った本の紹介を聞く。</p> <p>○「本の扉」の書き方を知る。</p> <p>○並行読書をする作品を基に、「本の扉」を作るという学習のめあてを知る。</p> <p>○海の命の関連作品を各自で読む。（単元を通して並行読書を行う）</p> | <p>○「本の扉」を使って紹介することで、学習のイメージをもたせること。</p> | <p>☆手立て■評価規準（評価方法）</p> <p>☆司書教諭と連携してブックトークを行うことで、学習の意欲を高める。</p> <p>☆実際に「本の扉」を使って作品紹介することで、学習の意欲を高める。</p> <p>☆どこに何を書くか、教師作成の「本の扉」を基に説明する。</p> <p>■人物の生き方が書かれた他の作品を読もうとしている。</p> <p>（関：観察）</p> <p>☆自分が興味・関心をもった本の並行読書をさせるために、教室に関連図書を設置する。</p> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">主人公の生き方について「本の扉」を作ろう。</div> |   |   |  |  |
| 二   | 2 | <p>○海の命の範読を聞く。</p> <p>○登場人物の生き方で印象に残った場面や疑問に思ったことなどを書く。</p>   | <p>○叙述に基づいて自分の感想をまとめること。</p>             | <p>■全文を読んで、心に残った場面や疑問、簡単な感想を書いている。</p> <p>（関：学習シート・観察）</p>   |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">海の命を読み、太一の生き方を考えよう。</div>   |   |   |  |  |
|   | 3 | <p>○登場人物とあらすじの確認をする。</p> <p>○初発の感想を交流し、読みの課題をもつ。</p> <p>クエを打たなかった太一の気持ちを考えよう。</p>   | <p>○一人一人の感想の共通点や相違点に興味をもつこと。</p>         | <p>☆物語の展開を把握するため、学習シートにあらすじをまとめさせる。</p> <p>☆前時の感想を一覧にまとめて配布し、どのような感想が集まっているのかを確認し、読みの課題についての共通理解を図る。</p> <p>■叙述を基に太一の葛藤について読み取っている。</p> <p>（読：学習シート・発表）</p>  |

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 4 | <p>○おとうの生き方や、太一のおとうに対する思いを捉える。</p> <p>・おとうと太一の人物像が分かる叙述を抜き出す。</p> <p>○叙述からおとうの生き方や、太一のおとうに対する思いを話し合う。</p> <p>○自分の考えを振り返る。</p>                                | <p>○叙述を基に、おとうと太一の人物像を読み取ること。</p> <p>○叙述から登場人物の相互関係を捉え、まとめること。</p> <p>○叙述を基に自分の考えをまとめること。</p>                       | <p>☆学習シートを2種類用意し、個に応じた指導を行う。</p> <p>☆太一がおとうをどう思っていたかを太一の言葉や行動から想像させる。</p> <p>☆登場人物の相互の関係をまとめる中で、太一のクエへの思いを想像させる。</p> <p>■交流を通して、おとうの生き方と太一のおとうに対する思いを関連付けて考え、自分の読みを深めている。</p> <p>(読：学習シート・発表)</p>                 |
| 5 | <p>○与吉じいさの言葉や行動が太一にどのような影響を与えているのかをまとめる。</p> <p>○おとうと与吉じいさに共通する海への考えについて叙述を基に話し合う。</p> <p>○自分の考えを振り返る。</p>   | <p>○叙述から登場人物の相互関係を捉え、まとめること。</p> <p>○叙述を基に、おとうと与吉じいさの人物像を読み取ること。</p> <p>○叙述を基に自分の考えをまとめること。</p>                    | <p>☆学習シートを2種類用意し、個に応じた指導を行う。</p> <p>☆与吉じいさの言葉や行動から与吉じいさの太一に対する思いも想像させる。</p> <p>☆おとうと与吉じいさに共通する海への考えを叙述から考えさせる。</p> <p>■交流を通して、与吉じいさの生き方と太一の成長とを関連付けて考えている。</p> <p>(読：学習シート・発表)</p>                                |
| 6 | <p>○太一の夢とその思いが変わる山場の部分を見つける。</p> <p>○クエを打たなかった太一の気持ちに関連する叙述から自分の考えをまとめる。</p> <p>○関連する叙述を基に、クエを打つのをやめた太一の気持ちについて交流する。</p> <p>○全体で交流し、クエを打たなかった太一の気持ちを考える。</p> | <p>○叙述を基に心情を捉えること。</p> <p>○クエを打つのをやめた場面を見付け、その理由を考えること。</p> <p>○叙述を基に心情を捉えること。</p> <p>○人物と人物の相互関係を捉え、おとうや与吉じいさ</p> | <p>☆学習シートを2種類用意し、個に応じた指導を行う。</p> <p>☆山場の部分やこれまでの学習を基に、クエをとることが太一の夢であることを捉えさせる。</p> <p>☆前時を振り返らせ、おとう、与吉じいさの教えとは何かに着目させる。</p>  |



|   |   |  |   |   |
|---|---|--|---|---|
|   |   | <p>○自分の考えを振り返る。</p>  | <p>の言動を関連付けた太一の気持ちの変化を考えること。</p> <p>○叙述を基に自分の考えをまとめること。</p> | <p>☆根拠となる叙述を明確にして交流させる。</p> <p>■おとうや与吉じいさの生き方と関わりを考え、太一のクエを打たなかった心情についてまとめている。</p> <p>(読：学習シート・発表)</p>                |
|   | 7 | <p>○太一の成長を捉え、太一の生き方、その生き方を通して学んだことについて「本の扉」を作成する。</p>  | <p>○読み取った主人公の生き方についてまとめること。</p>                             | <p>☆太一の生き方に影響を与えたおとうや与吉じいさの言動を「本の扉」に入れるように助言する。</p> <p>■「海の命」を読み、主人公の生き方、その生き方を通して学んだことについてまとめている。</p> <p>(読：本の扉)</p> |
| 三 | 8 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>並行読書してきた作品の主人公の生き方をまとめよう。</b> </div>  |   |   |
|   |   | <p>○並行読書で読んできた作品を「海の命」で学んだ視点に沿って、「本の扉」でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題名・作者名</li> <li>・主人公の成長過程を表すあらすじ</li> <li>・主人公の生き方</li> <li>・主人公の生き方を通して学んだこと</li> <li>・心に残る場面の絵</li> </ul> | <p>○読み取った主人公の生き方についてまとめること。</p>                             | <p>☆主人公の生き方と、人との関わりや出来事と関連付けながらまとめるよう助言する。</p> <p>■登場人物との関わりや出来事と関連付けて主人公の生き方についてまとめている。</p> <p>(読：本の扉)</p>           |
|   | 9 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>「本の扉」を紹介しよう。</b> </div>   |   |   |
|   |   | <p>○並行読書で読んできた作品の主人公の生き方や登場人物の関わりについて、「本の扉」にまとめ、紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は、グループで交流する。</li> <li>後半は、「本の扉」を机の上に置き、紹介し合う。</li> </ul>  | <p>○作品を読んで考えたことを読み合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。</p>               | <p>■主人公の生き方に対する考えを交流し合うことで、考えを広げたり、深めたりしている。</p> <p>(読：発表・本の扉)</p>  |

## VI 研究の成果と課題

### 【各分科会の成果】

| 成 果  |   |
|------|---|
| 中学年  | <p>○児童は、場面と場面とを関連付けながら、主体的に登場人物の人柄や気持ちの変化について想像を深めていった。また、同じ主人公が出てくるシリーズ作品の出来事と関連付けて読む姿も見られた。どの児童も自分の言葉で表現することができた。</p> <p>○「お話カード」は、登場人物の気持ちの変化とその要因を表すのに適しており、児童は意欲的に学習に取り組む中で、読みの力を身に付けていた。それらを生かし、第三次では自分が選んだ本の「お話カード」を作り上げることができていた。</p> |
| 第5学年 | <p>○読み取りの観点を設定し、目的意識を明確にすることで、指導者のねらいに沿って読みを深めたり広げたりすることができた。</p> <p>○物語の山場を中心に、前後の様子を関連付けながら読むことで、大造じいさんの深い心情に迫ることができた。</p>  |
| 第6学年 | <p>○登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けることで、登場人物の生き方や考え方についてを読み深めることができた。</p> <p>○単元を貫く言語活動を「本の扉」として設定することで、第二次で身に付けた読みの力を第三次の読書に生かし、主人公の生き方に着目して読み進めることができた。</p>   |

### 【全体の成果と課題】

| 成 果   | 課 題  |
|---|--|
| <p>○関連付けるべき内容や表現を、指導者が明確にもち、指導する場面を明確にすることで、児童は叙述を基に、想像豊かに読むことができた。</p> <p>○新しい気付きや発見の場となる交流の場を意図的に設定することができた。そうすることで、児童の読みに広がりや深まりを見ることができた。</p> | <p>○第5学年、第6学年では、優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめる学習にも今後取り組んでいくことが必要である。</p> <p>○交流の方法として、発表のし合いにとどまらない手立てが必要である。</p> |

## 平成24年度 教育研究員名簿

### 小学校・国語

#### 中学年分科会

| 地区    | 学校名     | 職名   | 氏名     |
|-------|---------|------|--------|
| 葛飾区   | 中之台小学校  | 主任教諭 | ☆北川 雅浩 |
| 江戸川区  | 西小松川小学校 | 主任教諭 | 井出 誠   |
| 青梅市   | 新町小学校   | 主任教諭 | 柳原 千恵子 |
| 東久留米市 | 南町小学校   | 主任教諭 | 関田 実歩  |

#### 第5学年分科会

| 地区   | 学校名       | 職名   | 氏名     |
|------|-----------|------|--------|
| 千代田区 | 麴町小学校     | 主任教諭 | 小影 俊一  |
| 荒川区  | 汐入東小学校    | 主任教諭 | ○栗山 智子 |
| 練馬区  | 光が丘夏の雲小学校 | 主任教諭 | 松浦 かおり |
| 立川市  | 第二小学校     | 主任教諭 | ☆宮西 真  |

#### 第6学年分科会

| 地区  | 学校名              | 職名   | 氏名     |
|-----|------------------|------|--------|
| 墨田区 | 小梅小学校            | 主任教諭 | ☆佐藤 優  |
| 足立区 | 千寿常東小学校          | 主幹教諭 | ◎神永 裕昭 |
| 三鷹市 | にしみたか学園三鷹市立第二小学校 | 主任教諭 | 中野 貴博  |
| 府中市 | 府中第五小学校          | 主任教諭 | 大平 慎悟  |

◎世話人 ○副世話人 ☆分科会長

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課  
 指導主事 富永 大優  
 東京都教職員研修センター研修部教育経営課  
 指導主事 林 みゆき

平成24年度  
教育研究員研究報告書

小学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6882  
印刷会社 株式会社 イマイシ